

～ 健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより 会報

2020 April vol. 56

 発行人/武井 典子 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
 TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 http://www.jdha.or.jp/

速報 令和元年度 都道府県歯科衛生士会会長会開催

令和2年2月15日(土)フクラシア東京ステーションにおいて、「令和元年度都道府県歯科衛生士会会長会」が開催された。

はじめに日本歯科衛生士会が注力している「災害への対応強化」「生涯研修の拡充と受講者の拡大」「離職防止・復職支援」「組織強化と会員拡大」の4点について、会長挨拶があり、それに基づき、取り組みの進捗につき協議された。特に、eラーニング集合型研修の再生時のトラブル回避のためのUSB配信の事前準備や、ブロック連絡協議会時に意見交換された組織強化については、関心も高く、ていねいに協議が進められた。



その後の報告事項では、平成30年度地域歯科保健活動実施状況報告等、各種資料が提供され、それぞれの担当役員より解説があった。後半は、歯科衛生士の人材確保・復職支援に関する取り組みについて、熊本県と徳島県から情報が提供され、参加者から活発な質問や意見があった。その後、6ブロックに分かれて分科会が行われ、閉会となった。

令和元年度 歯科衛生推進フォーラムが開催される

令和2年2月16日(日)ステーションコンファレンス東京において、近年の歯科医療・保健・福祉を取り巻く環境の変化に対応して、効果的な地域歯科衛生活動を実践するため、厚生労働行政及び保健医療福祉の動向に対応した知識・技術の習得を図るとともに、地域歯科衛生活動の指導者育成に寄与することを目的に「令和元年度 歯科衛生推進フォーラム」が開催された。今年度のテーマは、「高齢者の保健事業と介護予防の一体化推進」であり、一体的実施に向けて、歯科衛生士がどのように関わっていくのか、歯科衛生士会は何をすべきかを考える場が提供された。

まず、厚生労働省医政局歯科保健課田口裕裕課長と札幌市保健福祉局の秋野憲一氏から、歯科保健医療の動向や一体的実施の制度の概要等情報をご提供いただき、北海道歯科衛生士会武藤智美会長から歯科衛生士会の活動、千葉県



柏市保健福祉部吉田みどり課長より市町村歯科衛生士の立場から取り組み内容について、事例が報告された。

その後、参加者が12のグループに分かれ、ディスカッションが行われた。取り組みはじめた歯科衛生士会からは具体的な質問が出たり、行政の動きを把握していなかった参加者は情報収集や勉強会をしなくてはならないと意識が高まったり、熱く積極的に検討されていたのが印象的だった。(詳細は次号「歯科衛生だより57号」に掲載予定です。)



リーフレット「オーラルフレイル対策」を作成しました

第4弾となるリーフレットを、今年もサンスター株式会社の協力を得て作成しました。正会員の皆様にご封いたします。診療室のチェアサイドで、オーラルフレイル対策について説明する際にご活用ください。日本歯科衛生士会ホームページからダウンロードが可能です。(病院委員会)



2020年度 認定歯科衛生士セミナー開催のお知らせ

糖尿病予防指導コース	協力教育機関	開催地	前 期	後 期
	徳島大学歯学部	徳島市	7月4日(土)・5日(日)	11月7日(土)・8日(日)

医科歯科連携・ 口腔機能管理コース	委託教育機関	開催地	開催日	
	東京歯科大学	市川市	前期：7月2日(木)・3日(金)・4日(土) 後期：7月20日(月)～8月25日(火)の期間に いずれかの月、火曜日の2日間で開催します	

※「医科歯科連携・口腔機能管理コース」は、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期と重なるため、本会で一定数の宿泊先を確保しています。お困りの時はご相談ください。

新設 歯科医療安全管理コース	委託教育機関	開催地	開催日	
	広島大学歯学部	広島市	9月3日(木)・4日(金)・5日(土)・6日(日)	

※受講者基準

歯科衛生士業務経験3年以上(実務経験1年以上含む。)の者で、生涯研修制度「専門研修」C特定コースにおける、「a歯科診療所等における医療安全管理対策」項目において、10単位以上を修了している者。ただし、2020～2024年度の暫定期間については、上記研修項目において6単位以上を修了している者。

生活習慣病予防(特定保健指導一食生活改善指導担当者研修)コース、摂食嚥下リハビリテーションコース、在宅療養指導・口腔機能管理コースの3コースは、「歯科衛生士だより会報55号」でお知らせしたとおり、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、会場や参加者の宿泊場所等の確保が困難となるため、実施しないこととしました。

eラーニング研修 新コンテンツのご紹介

eラーニング(DH-KEN)に業務記録や在宅歯科医療など、下記のとおり臨床に役立つコンテンツがさらに増えました。最新の情報がわかりやすく解説されておりますので、ぜひ視聴し、臨床の場に生かしましょう。各研修項目を修了すると、第5次生涯研修制度の基本研修・認定更新生涯研修の単位が取得できます。詳しくは「DH-KEN 歯科衛生士のためのeラーニングサイト」(<https://dhken.jp/>)にアクセスしてください。

1. 医療面接 第5次生涯研修制度「リフレッシュ f 医療面接」プログラム

研修項目	内 容	講師(敬称略)	単 位
医療面接2	●自己紹介を通して覚悟が宿る ●送り返しが共感を生み出す ●魔法の言葉で理由を探る	西田 互	2単位
医療面接3	●歯科衛生士は生涯に寄り添う仕事 ●前向きな外来を実現するために ●あなたに会えてよかった	西田 互	2単位

2. 歯科治療の基礎知識 第5次生涯研修制度「リフレッシュ j 歯科治療の基礎知識」プログラム

研修項目	内 容	講師(敬称略)	単 位
保存修復治療 機器・材料の変遷	●保存修復治療(カリオロジー)の考え方と変化 ●保存修復治療の種類&接着ステップ ●前歯3級修復のステップ ●白歯2級修復のステップ ●メンテナンス&近年の保存修復	田上 順次	1単位
補綴歯科治療 機器・材料の変遷	●クラウン製作の流れ ●ブリッジ製作の流れ ●新しいクラウン・ブリッジ材料	高橋 英和	2単位
	●全部床義歯製作の流れ ●部分床義歯製作の流れ ●有床義歯のケアと患者指導	鈴木 哲也	

3. 業務記録 第5次生涯研修制度「リフレッシュ k 業務記録」プログラム

研修項目	内 容	講師(敬称略)	単 位
歯科衛生士に必要な 業務記録の書き方	●業務記録を学ぶ前の予備知識 ●診療報酬と歯科衛生士業務の実践 ●よくある質問と対応について	鳥山 佳則	1単位

4. 在宅歯科医療 第5次生涯研修制度「特定コース c 在宅歯科医療の基礎」

研修項目	内 容	講師(敬称略)	単 位
はじめての 在宅歯科医療	●在宅歯科医療の背景 ●歯科訪問診療業務の留意点 ●歯科訪問診療における歯科衛生士の役割	細野 純 山口 朱見	2単位

令和元年度 歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」が東京、岩手、大阪、福岡で開催！

令和元年度「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会（厚生労働省委託・日本歯科衛生士会主催）が平成29、30年度に続き、12月14日・15日に東京会場（東京医科歯科大学）、12月21日・22日に岩手会場（アイーナいわて県民情報交流センター）、1月25日・26日に大阪会場（大阪歯科大学）、2月1日・2日に福岡会場（福岡県歯科医師会館）で開催された。

本講習会の趣旨

育児・介護等によって離職していた歯科衛生士の復職支援や職業人として第一歩を踏み出した新人歯科衛生士に対する基本的な臨床実践能力の獲得と離職防止を推進するために「歯科衛生士復職支援共通ガイドライン」ならびに「新人歯科衛生士技術支援共通ガイドライン」が作成された。このガイドラインを実践できる、地域で中核を担う研修指導者および臨床実地指導者等の人材を育成し、地域における指導体制の確保に資することを目的としている。

3年目となる令和元年度は、4会場ともに厚生労働省医政局歯科保健課の方々にご講演いただいた。東京会場は、小嶺祐子課長補佐、岩手会場は星真奈実主査、大阪会場は田口円裕課長、福岡会場は堀義明主査であった。平成30年度までは、録画した講演の受講であったが、今回は各会場でそれぞれの講師から趣旨説明がされた。講師を目の前のした参加者には大変理解しやすく、また、指導者としてのマインドも高まったようである。

本講習会は「歯科衛生士のための研修カリキュラムの開発」をテーマに、2日間のほとんどが参加者主体のワークショップとなっている。「決められた課題をグループで討議し、問題点を抽出、その後プロダクトの全体発表、意見交換後、グループに戻って修正する」を繰り返し、ブラッシュアップさせていく。教育、臨床のさまざまな立場の参加者からは活発に意見が出され、相互に学ぶ貴重な機会となった。最後のセッションでは、受講者より講習会での学びを生かし、地域に戻って人材育成・確保の指導者となる意気込みが語られた。

今後の都道府県会における復職支援や離職防止の推進に役立てていただきたい。（日本歯科衛生士会 専務理事 河野 章江）



大阪会場
田口 円裕課長



東京会場
小嶺 祐子課長補佐

日本歯科医学教育学会主催「第10回歯科医学教育者のためのワークショップ」 （文部科学省・厚生労働省共催、日本歯科医師会・日本歯科医学会後援）を受講して

神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 准教授 上原 弘美
「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」企画運営委員

歯科医学教育者を対象としたワークショップに、歯科衛生士としては、初めての受講者という光栄な機会に恵まれた。ワークショップは幕張国際研修センターにおいて、2019年12月6日（金）～12月10日（火）に開催された。4泊5日という長丁場であり、歯科医師の中に入ってついていけるのかという不安もあったが、タスクフォースの歯科医師の何名かは日本歯科衛生士会主催「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」（厚生労働省委託）（以降、指導者等講習会）でタスクフォースをしていただいております、企画運営委員である私は先生方と顔なじみであったこと、指導者等講習会を担当してワークショップの研修方法について若干の知識があったことなどで受講を志願した。

ワークショップの趣旨は、「社会の要請に応える歯科医師を養成すべく、教育の在り方を検討し充実させていくこと」である。特別講演では文部科学省（卒前教育）と厚生労働省（卒後教育）



からの講義があり、「卒前・卒後教育のシームレスな連携」の重要性が双方から語られた。6年間のコアカリキュラムに基づく歯学部教育、それに続く歯科医師臨床研修医制度（1年以上）、

その後の生涯学習の一貫性が問われており、文部科学省・厚生労働省・日本歯科医師会・日本歯科医学会の総意のもとに進められている歯科医師教育の現状を理解することができた。一方で、歯科衛生士教育にも重要課題であると感じた。

5日間の研修は、課題にそって小グループでディスカッションをし、全体で発表、他グループやタスクフォースとの討論を繰り返し、プロダクトを実行していった。話し合いを進めることで、一人一人が自身の教育者としての考えに向き合う時間となった。全国各地から集まった、分野の異なる先生方と一つのプロダクトに向けて話し合った時間はかけがえのないものとなった。研修センターから一歩も外に出ることなく、研修室と上階にある宿泊施設と食堂を行き来し、ただひたすらに教育のことを考える濃厚な5日間であった。

受講を終えた今、「社会の要請に応える歯科衛生士教育の課題」を自問自答している。今回受講したワークショップを参考に、3年が経過した指導者等講習会の充実を図り、専門性の高い歯科衛生士の育成に尽力していきたい。また、日々の歯科衛生士学生への教育に還元し質の高い歯科衛生士養成に寄与したい。

受講に際してご高配をいただきました日本歯科衛生士会、そして神戸常盤大学の関係各位に感謝申し上げます。

平成30年度地域歯科保健活動実施状況報告

公益社団法人日本歯科衛生士会では各都道府県歯科衛生士会の歯科保健活動状況を把握し、今後の推進方策等の基礎資料とするために毎年調査を実施している。以下に平成30年度調査結果を報告する。

I 調査方法及び調査項目

調査方法

47都道府県歯科衛生士会に調査票を電子媒体にて送信し回答を得た(回答率:100%)。

実施主体別

1 主催事業

都道府県歯科衛生士会が計画、実施した事業

2 共催・協力・後援事業

行政、歯科医師会、その他から依頼を受けて実施した事業

3 受託事業

行政、歯科医師会、企業等から委託を受け、委託契約書を交わして実施した事業

事業内容別状況

- ①母子歯科保健事業
- ②学校歯科保健事業
- ③成人歯科保健事業
- ④高齢者・要介護者歯科保健事業
- ⑤障害児(者)歯科保健事業
- ⑥休日救急歯科診療事業
- ⑦歯と口の健康週間事業
- ⑧その他事業
- ⑨各種委員会への構成員としての参画

II 調査結果

1. 事業実施回数

平成30年度事業実施回数は49,879回であった。実施主体別では、共催・協力・後援事業が31,402回(62.9%)、受託事業が17,939回(36.0%)、主催事業は538回(1.1%)であった(図1)。

依頼別にみると、行政からの依頼は共催・協力・後援事業が71.2%、受託事業が72.8%と、ともに7割以上を占めていた。歯科医師会からの依頼は共催・協力・後援事業が20.9%、受託事業が18.4%であった(図2、3)。

事業内容別でみると、母子歯科保健が20,215回(40.6%)と最も多く、次いで高齢者・要介護者歯科保健の8,633回(17.4%)、学校歯科保健の5,298回(10.6%)であった(図4)。

依頼機関別でみると、行政からは母子歯科保健が53.5%

と最も多く、次いで高齢者・要介護者歯科保健が15.3%であった。歯科医師会からは休日救急歯科診療が30%と最も多く、次いで障害児(者)歯科保健が19.8%であった(図5)。

2. 実施延べ人数

実施総延べ人数は1,859,285人であり、実施回数と同様に母子歯科保健が664,403人(35.8%)と最も多く、次いで学校歯科保健が551,570人(29.8%)、高齢者・要介護者歯科保健が132,122人(7.1%)であった(図6)。

3. 年次別活動状況

実施回数および実施延べ人数について3年間の結果を比較すると、各種委員会への参画については平成28年度と比べ、実施回数が1,511回から3,312回、実施延べ人数が26,649人から56,008人と、ともに2倍以上の増加となった。

障害児(者)歯科保健は増加傾向にあったが、高齢者・要介護者歯科保健については、平成30年度は実施回数および実施延べ人数ともに減少した(図7、8)。

実施回数および実施延べ人数を経年的にみると、回数に大きな変化はないが、実施延べ人数は年々増加しており、平成21年度から約40万人増加した(図9)。

事業に従事した歯科衛生士数は99,948人で、前年よりわずかに増えたが、1回の事業に従事する歯科衛生士数に大きな変化はなかった。実施延べ人数は増加していることから、歯科衛生士1人当たりの指導人数は増加している(図10)。また、各種委員会の構成員として参加する歯科衛生士数は、委員会開催回数と共に大きく増加している(図11)。

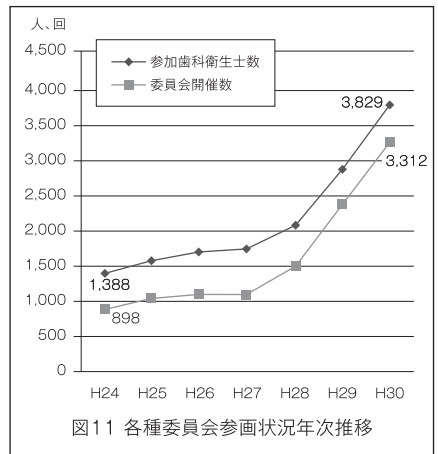
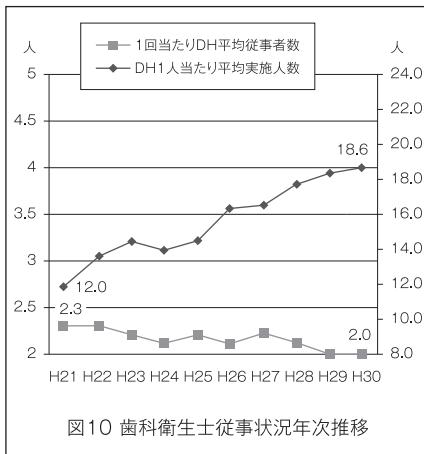
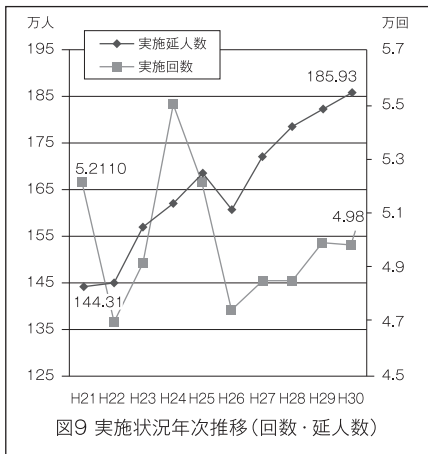
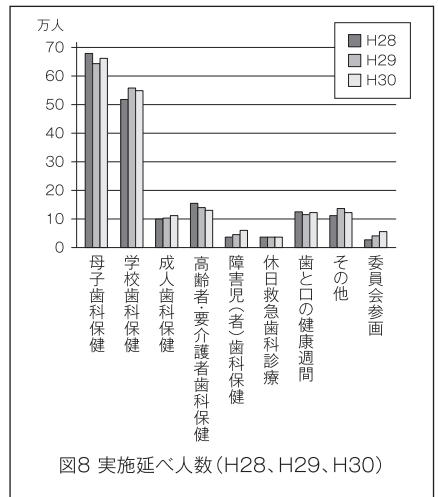
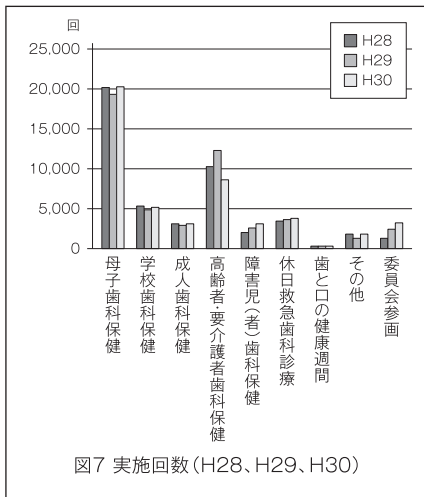
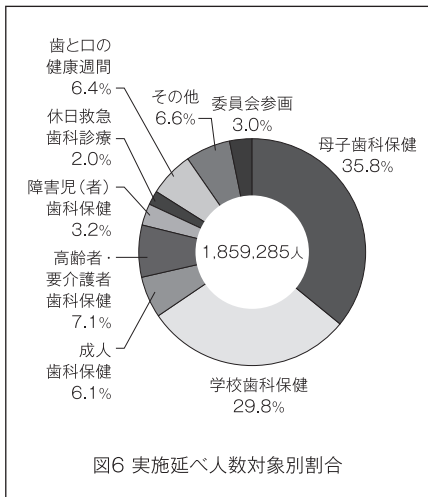
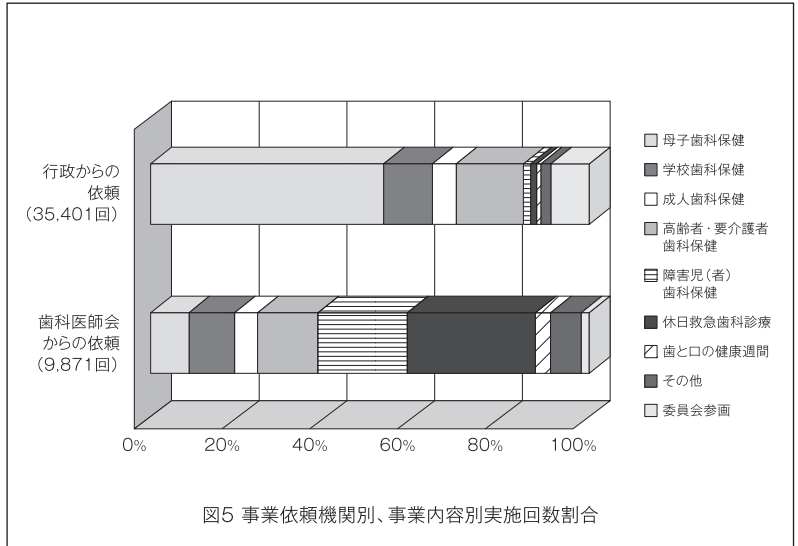
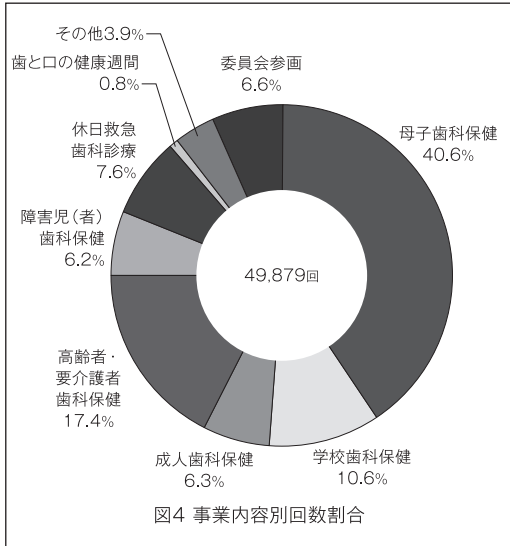
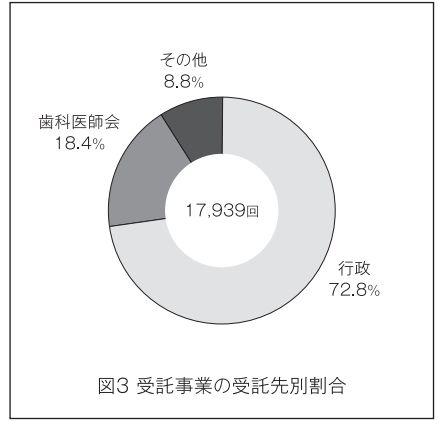
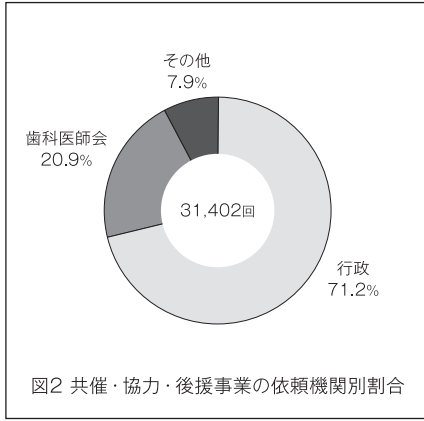
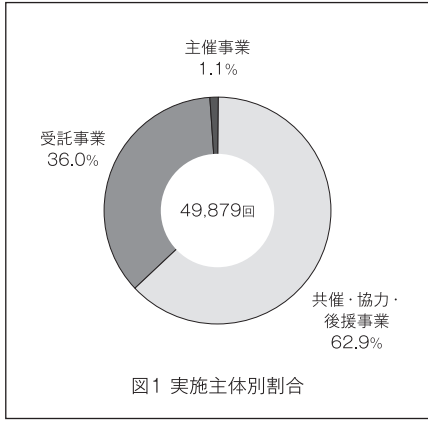
III まとめ

各都道府県会ではライフステージごとに様々な事業が展開されており、歯科衛生士1人当たりの平均実施人数も増加し続けている。

また、地域ケア会議等の委員会への参画が大きくなり、専門職として歯科衛生士が助言を行う機会が増加し、他職種との連携がさらに図られていることが推察される。

本調査は都道府県会の協力のもとに毎年実施しているが、社会ニーズを把握するとともに、歯科衛生士の活動状況を確認できる貴重な資料となっている。今後、地域での歯科保健活動を推進するためにご活用いただきたい。

(地域歯科保健委員会)



日本歯科衛生学会 第15回学術大会のご案内

メインテーマ **広げよう! つなげよう! 笑顔を支える輪 — 新たな時代の歯科衛生士の役割 —**

開催期日 **2020年9月19日(土)~21日(月・祝)**

開催場所 **大阪国際交流センター
大阪府大阪市天王寺区上本町8-2-6**

共催 **公益社団法人大阪府歯科衛生士会**

主催 **日本歯科衛生学会
公益社団法人日本歯科衛生士会**

後援 **大阪府、大阪市(予定)
一般社団法人大阪府歯科医師会
一般社団法人大阪市天王寺区歯科医師会**

9月19日(土)	ワークショップ	
9月20日(日) 9:30~10:30 10:45~11:45 12:00~12:50 13:10~14:10 14:20~16:04 16:10~17:10 17:20~	受付開始(8:30) 開会行事、表彰式、学術賞授賞者プレゼンテーション 特別講演「認知症によりそう歯科衛生士のまなざし」 松本診療所ものわすれクリニック理事長・院長 松本 一生 氏 ランチョンセミナー 教育講演1 「大学・短期大学における臨床実習を考える」 講演1「医療系教育における臨床実習」 東京歯科大学 歯科医療管理学 教授 鳥山 佳則 氏 講演2「歯科衛生士教育における臨床実習」 東京医科歯科大学大学院 生涯口腔保健衛生学分野 教授 荒川 真一 氏 口演発表、ポスター発表 教育講演2 「訪問歯科診療と歯科衛生士への期待」 東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科 准教授 戸原 玄 氏 交流会	商業展示
9月21日(月・祝) 8:50~ 9:00 9:00~11:30 11:45~12:35 12:50~13:50 14:00~15:30 14:00~16:00 16:00~	受付開始(8:30) 第16回学術大会案内 シンポジウム テーマ: 新たな時代の歯科衛生士の役割 基調講演「新たな時代の歯科衛生士に期待すること」 大阪大学 歯学研究科 予防歯科学 教授 天野 敦雄 氏 講演1「歯周病予防管理を担う歯科衛生士の立場から」 えんどう歯科クリニック 歯科衛生士 岡田 智代子 氏 講演2「医科歯科連携を担う歯科衛生士の立場から」 とみもと歯科医院 歯科衛生士 松浦 佑香 氏 講演3「地域連携を担う歯科衛生士の立場から」 なんごうや歯科医院 歯科衛生士 山下 恵里佳 氏 ランチョンセミナー 府民フォーラム「大切な人の『想い』とともに…」 一般社団法人清水健基金 代表理事/キャスター 清水 健 氏 研究討論会 口演発表、ポスター発表 閉会行事	商業展示

※タイムスケジュール等は、演題数により変更になる場合があります。

発表演題登録および参加事前登録について

第15回学術大会の会員発表演題を、学術大会ホームページにて受け付けています。受付期間は4月15日(水)13:00までです。申込み方法などの詳細は下記URLまたは日本歯科衛生学会雑誌Vol.14 No.2をご参照ください。多くのお申込みをお待ちしています。

第15回学術大会ホームページ <https://jsdham.jdha.or.jp/15th/>

参加事前登録については、6月1日(月)より開始いたします。登録方法は、次号「歯科衛生だより」および大会ホームページにてご案内いたします。今回より、ランチョンセミナー事前登録受付開始に伴い、オンラインでの事前登録のみとさせていただきます。



2020年度 公益財団法人富徳会研究助成のご案内

2020年度の募集は、4月1日より始まります。対象は、歯科衛生業務に従事する歯科衛生士(業務経験2年以上で、40歳以下)です。応募方法などの詳細は、富徳会ホームページ[<http://www.isi-sys.net/futokukai/>]をご覧ください。

ブロック連絡協議会 ブロック別・災害歯科保健歯科衛生士フォーラム

北海道・東北ブロック(青森県) 一般社団法人 青森県歯科衛生士会 副会長 田名辺 裕子

令和元年11月16日(土)青森県八戸市において北海道・東北ブロック連絡協議会が日本歯科衛生士会より茂木美保副会長、千葉茂美ブロック理事を迎え、1道5県から12名の参加があり、総勢20名で開催された。

茂木副会長より日本歯科衛生士会からの連絡事項として第5次生涯研修制度、認定セミナー、歯科衛生士勤務実態調査、組織率等の情報提供があり、千葉ブロック理事より「会員拡大及び組織強化に関するアンケート結果報告」をしていただいた。その後「本当の意味での組織拡大」というテーマでディスカッションが行われ、事務局体制、非会員を会員にするためには等前向きで具体的な事項について活発な意見が交わされ、限られた時間のなかで多くの意見が出され協議された。

翌17日(日)のブロック別・災害歯科保健歯科衛生士フォーラムには27名が参加した。講師に日本歯科衛生士会久保山裕子常務理事をお招きして、「DHUGの活用～避難所の初期アセスメント実地日の一日を体験する～」の演題のもと、DHUGⅢで情報カードを使って聞き取り、グループで集計、アセスメント票に記載し問題がある所を把握、活動方針を決める疑似体験を行い、災害歯科保健の流れを学んだ。福岡での実際の活動状況をわかりやすくご説明いただき有意義な災害歯科保健フォーラムであった。昨年度は東北地方でも台風の自然災害があり、平時からの備えの重要性を改めて考える機会となった。

最後に、ブロック連絡協議会が皆様のご協力のもと無事終了したことを心より感謝申し上げたい。



関東信越ブロック(東京都) 公益社団法人 東京都歯科衛生士会 会長 藤山 美里

令和2年2月9日(日)アルカディア市ヶ谷において、ブロック別・災害歯科保健歯科衛生士フォーラムおよびブロック連絡協議会が開催された(1都9県:参加者42名)。

当初、昨年10月に2日間の日程で予定されていたが、大型台風19号の接近により延期を余儀なくされ、日を改めて1日の開催となった。台風が列島に残した爪痕は大きく、広い範囲で記録的な大雨や暴風、高潮となり、複数の河川が氾濫するなど、平常時からの災害への備えが大切ということを知り、改めて知る機会となった。

午前は、ブロック別・災害歯科保健歯科衛生士フォーラムを開催し、中久木康一氏(東京医科歯科大学大学院)を講師にお迎えして、「災害時の歯科保健演習(DHUG)をやってみよう!」をテーマにグループワークを行いました。午後は、日本歯科衛生士会武井典子会長から「歯科衛生士を取り巻く環境変化と対応 ～歯科衛生士力を高めて社会ニーズに応えるために～」と題し、職能団体が今後取り組むべき課題をご提示いただいた。その後のブロック連絡協議会では、会員増に向け各歯科衛生士会がどのような取り組みをしているか等、事例を含めた報告があり、意見交換の貴重な場となった。



1日開催はタイトなスケジュールであったが、参加者のご協力のもと円滑に進行できたことを、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

近畿ブロック(京都府) 公益社団法人 京都府歯科衛生士会 会長 白波瀬 由香里

令和元年11月30日(土)京都テルサにて、日本歯科衛生士会より茂木美保副会長、高田橋美幸ブロック理事を迎え、近畿2府4県26名(オブザーバー6名含)の参加で近畿ブロック連絡協議会を開催した。

茂木副会長より日本歯科衛生士会からの連絡事項として「第5次生涯研修制度について」「歯科衛生士の人材確保・復職支援等の推進に関して」等、情報提供いただいた。高田橋ブロック理事から「会員拡大及び組織強化に関するアンケート結果報告」があり、その後「本当の意味での組織拡大」をテーマに各府県の問題点や今後について白熱したディスカッションとなった。他に、協議事項として「次年度開催日程」「近畿デンタルショー2020担当について」等、各府県の情報交換を行い活発な意見を交わした。

翌12月1日(日)ブロック別・災害歯科保健歯科衛生士フォーラムでは、日本歯科衛生士会役員、近畿府県会役員及び会員、他職種、京都府歯科医師会災害担当の先生方へ出席いただき69名の参加の中、中久木康一氏(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)に講義と実習を行っていただいた。「災害時の避難所における歯科保健活動を体験するDHUGⅢ」について中久木氏の解説を交えながら、災害避難所での実際の保健活動についてワークを行った。出席者全員が事前学習用テキストを読んで参加したため講義をより理解することができた。グループワークでは避難所・災害本部への報告について学び、災害歯科保健現場の状況を体験することで災害対応の仕組みや支援の位置付けを考える機会となった。

最後に近畿ブロック連絡協議会開催への皆様のご協力に深く感謝申し上げます。



九州ブロック(佐賀県)

佐賀県歯科衛生士会 会長 八木 浩子

令和元年11月23日(土)佐賀市において、九州ブロック連絡協議会が開催された。日本歯科衛生士会より上田和美副会長、宮脇恵美子ブロック理事を迎え、九州8県26名(オブザーバー11名)の出席のもと開催した。来賓として佐賀県歯科医師会門司達也会長よりご挨拶をいただいた。上田副会長からは「日本歯科衛生士会からの情報提供」と題して、第5次生涯研修制度について、歯科衛生士の人材確保・復職支援等の推進に関して、などのお話があった。続いて宮脇ブロック理事より「会員拡大及び組織強化に関するアンケート結果報告」があり、各県の現状等が述べられ「本当の意味での組織拡大」について活発な意見交換が行われた。協議事項では特に歯科衛生士の不足に係る、「会として歯科衛生士のPR等における取り組みについて」は、各県の抱えている課題について現状や意見が述べられ、今後取り組むべき課題について確認が行われた。

翌24日(日)は、ブロック別・災害歯科保健歯科衛生士フォーラムを開催した。今回は、佐賀県医療関係団体(佐賀県歯科医師会・栄養士会・看護協会・言語聴覚士会・作業療法士会・理学療法士会・薬剤師会の7団体)からも出席していただき、講師に、日本歯科衛生士会久保山裕子常務理事を迎えて「災害時の歯科保健活動を体験するDHUGⅢ」についてご講演いただいた。引き続きグループワークに移り、その後ワーク研修の発表が行われた。災害に備え、疑似体験型演習を行うことが重要であると感じた。また、災害時には、多職種連携が必要であることから、関係団体からもフォーラムに参加できて良かったとの意見もあり、さらなる連携強化につなげることができたと思われる。

最後に、九州ブロック連絡協議会開催にあたり皆様のご協力に深く感謝申し上げます。



理事会報告

令和元年度第5回理事会が令和2年1月19日に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和2年度常任委員会重点課題(案)について
- (2) 令和2年度事業計画(案)について
- (3) 令和2年度収支予算(内訳書)案について
- (4) 規則・規程の一部改正について
- (5) 認定歯科衛生士「認定分野B」の申請について
- (6) 新入会員の承認について
- (7) その他
 - ① 第5次生涯研修制度実施要綱の一部改正について
 - ② eラーニング研修の実施要領の一部改正について
 - ③ 認定歯科衛生士制度施行細則の一部改正について

報告事項

- (1) 会務報告について
- (2) 監査実施報告について
- (3) 令和元年度災害歯科保健歯科衛生士フォーラム実施報告について
- (4) 令和2年度厚生労働省歯科関連予算案について
- (5) 歯科衛生士の復職支援・新人育成における課題の検討について
- (6) 第3回広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター運営委員会報告について
- (7) 厚生労働省委託事業「口腔保健に関する予防強化推進モデル事業に係る研究等一式」第2回検討委員会報告について
- (8) 厚生労働省委託事業「う蝕対策等歯科口腔保健の推進に係る調査等一式」第1回検討委員会報告について
- (9) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について



Linking JDHA to IFDH

『International Journal of Dental Hygiene』

本会では、IFDH発行の『International Journal of Dental Hygiene』の購読をしています。2019年8月号および11月号の目次を紹介いたします。本会において閲覧することができますので、ご希望の方は国際協力委員会までお申し込みください。(FAX 03-3209-8023)

国際歯科衛生士誌

2019年8月第17巻3号

原著

- 口腔衛生指導時における口腔内カメラ撮影イメージと携帯メールの利用が成人の歯肉炎の改善に与える効果：8か月間のランダム化比較試験
- 歯肉炎を有する妊婦における口腔清掃行動に影響を与える要因
- 学童期の体験学習を用いた学校での2年間の口腔衛生教育プログラムの有効性に関する予備的研究
- 軽度歯肉炎に対するクロルヘキシジン配合洗口剤の治療効果と有害事象について：着色防止と塩化セチルピリジニウムを加えた有効性に関する評価
- フッ化アミンおよびフッ化第一スズ配合歯磨剤のブラークと歯肉炎の減少効果：12週間のホームケアにおけるランダム化比較試験
- 少ない残存歯数は低体重の危険因子：(山形スタディ)
- ベトナム人慢性腎臓病患者のう蝕状況および唾液の特性
- ランダム化 in situ 臨床試験による0.454%フッ化第一スズ配合歯磨剤の酸蝕予防効果の評価
- デジタル歯科衛生士教本の活用に対する学生および教職員への意見調査
- 歯科レントゲン写真のブレンド型学習モジュールを用いた読影演習に対する学生の自己評価

国際歯科衛生士誌

2019年11月第17巻4号

原著

- 慢性歯周炎を有するコントロール不良な2型糖尿病患者への歯周治療におけるダイオードレーザー照射の長期効果
- 骨切除手術後の早期的な歯周組織の創傷治癒とサイトカインレベルにおける手術後の2つの洗浄方法の効果：無作為比較試験
- 歯周炎を有する患者への非外科的歯周治療の成功：後ろ向き調査
- 口腔内ピアスと歯周状態との関連について一症例集
- 老人ホーム居住者を対象としたデンタルナースによる3か月間の定期的な術後磨きの効果 — 無作為比較試験
- 韓国における看護師が入院患者に対して行う口腔ケア
- ささまざまな形態の歯周病がQOLに与える影響をOHIP-14とSF-36アンケートを用いて評価した横断研究
- 香港における重度の早期小児う蝕を持つ子供のQOLと関連する口腔保健に影響を与える因子
- ポルトガル、ルーマニア、スウェーデンの成人の習慣、態度、知識に関連した自己申告による口腔衛生 — 比較研究
- 歯間部清掃器具に関する患者の知識、態度、行動：混合研究